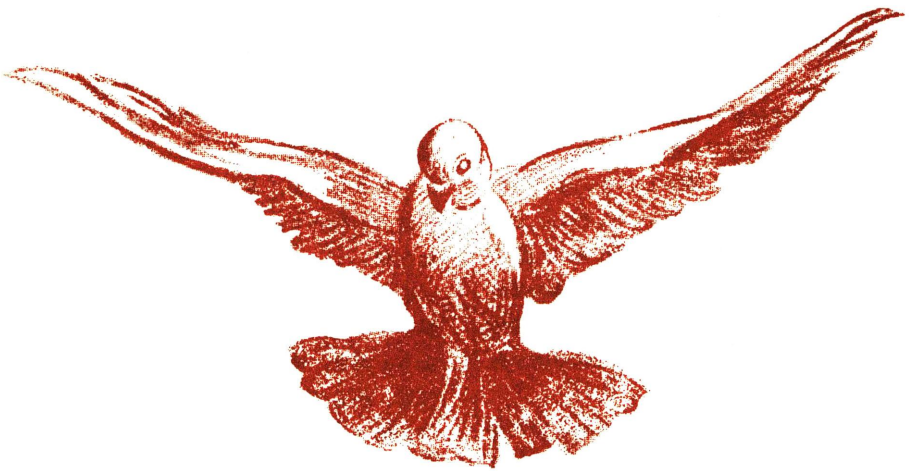


# 幼 兒 教 育

第 三 号

第 四 十 六 卷



日 本 幼 稚 園 協 會

## 保育者の新しいノート (5)

S. K. 生

### (1)

○春が来た。幼稚園に来た。庭に来た。保育室に来た。遊戯室に来た。わたしたちの待つていた春だ。よく迎えなければならぬ。その用意はいまだろうか。

○窓のガラスをよくふこう。せつかくの春の光が、くもつたガラスでは戸まどいするだろう。そうして、よけて行ってしまうかも知れない。ほこりのまゝのガラス窓にさす春の日、半屋じやあるまいし。

○部屋を隅々よく掃除しよう。冬の間がたつて掃除しないことはない。しかし、窓をあけきれない掃除は、隅々のごみを残した。殊に戸棚のうしろ棚のかげ、春の光はそうした隅々にもさすのに。たゞの掃除では足りない。春のあかるい光に色のはげたところが気になる。

○額繪がらはどうか。戦争中の殺風景な額はとうにはずしてある。しかし、殺風景でない風景畫にしても、冬木立、雪の山は、この春日のものではない。春よ来い、と子どもさんたちが歌つても、それだけでは額の枯木に花が咲かず、山の雪は溶けない。

○くすんだ壁を塗りかえることは出来ぬ。しかし、よくすゝを拂えば、見ちがえる程あかるくなる。大きいことより小さい部分に、意外問題があるものだ。春を迎えるについても。

○春を迎える心で庭を見ると、もう春がそこにもこゝにも来ている。それなのに、

—あゝなんと心なき主よと春にいわれそ  
うな散らかりかただろ。片づけよう。掃  
こう。なんといつても春光の一番の御座敷  
は庭だ。

### (2)

○きれいにするばかりではない。春を見  
落しては尙すまない。小さく出た木の芽、  
草の葉、そつと咲いている小さい花、春は  
そんなに前ぶれして行列をつくつてばかり  
来ない。その春の行進も楽しいが、その前  
にちらりほらり、足音ひくゝ忍びよる春の  
子は尙かawaii。それを迎えそこなつては  
ならぬ。

○冬の終りのある暖い日からつけ初めた  
私の「春待ち日記」を、毎日忘れずにつけ  
よう。何日、南風。何日、やわらかい雨。  
何日、小鳥の聲。何日、花幾輪。何日、小  
さい蝶々。何日、空の色。何日、ふと浮ん  
だ春の歌一首。

○春を外に迎えると共に内に迎える用意  
もまた忘れまい。俳句集春の部や和歌集春  
の部を再びとり出して、好きな詩をぬき書  
きしよう。そうして、その詩にふさわしい  
色のチョークで小さく黒板のはしに書いて  
置く。その中に私の句や歌を書いておくの  
も一興。人に見られては恥しいが、春は私  
の歓迎を快く受けて呉れるだろう。

○更に、この明るく温い春を迎える私自  
身の心の用意は……？子どもたちには、み  
んな、ちゃんとその用意がとものつてい  
るが！

# 幼 児 の 教 育

第 四 十 六 卷 第 三 號

## 目 次

まごころ……………倉橋惣三(2)

現代幼稚園教育の發達……………(レン・ヘファーナン)(5)

楽しい幼稚園の構想……………井手達郎(9)

からだで味わう音楽……………井上武士(13)

幼児保育に關する新しい法律案……………副島ハマ(16)

＝保育の實際＝

遊戯「こもんのまえ」……………戸倉ハル(19)

母と語る(3)……………倉橋惣三(21)

保育者の新しいノート(5)……………S・K・生

會から……………(32)

講 座

病氣のくせ……………廣瀬興(23)

## まごころ

倉 橋 惣 三

教育の心こそまごころである。その子のために眞實におも  
う心、その子のためというも、便宜の幸福にとどまらず、そ  
の子を、眞に人間として尊重するがゆえの心、このまごころ  
なしに教育はない。

教育はいろ／＼の目的を以て行われる。しかし、目的が教  
育ではない。目的は教育を行つてゆくためであり、つまり  
は、教育の結果としての、望ましいあれこれの期待である。  
が、それらの目的が教育そのものではない。その子への教育  
の心先ず動いて、期待が起り、目的が定められるのである。  
その教育の心はその子へのまごころから發する。目的のため  
のまごころでなく、まごころあつての目的であることを考え  
ちがいはならぬ。

教育にはいろ／＼の方法がある。しかし、方法が教育その  
ものでないことはいうまでもない。方法は、だてであり、教  
育の具に過ぎぬ。教育の具も亦大切である。それなしに教育  
の目的は達せられないであらう。が忘れてはならぬ。具は主  
あつての具である。教育の主は教育の心、すなわち、その子  
へのまごころである。まごころが方法を用うるのである。

なんのため、なんのために教育しなければならぬといわれ  
る。しかし、その子のためにしなければならぬまごころなし  
に、目的はたゞこれ、望ましいよきことである。どうして、  
こうして教育するという、その方法が選ばれるのは目的のた  
めであるが、その子のためまごころなしには、方法は單な  
る方法である。單なる目的と方法が教育そのものでないこと  
はいうまでもない。たとえば、健康が目的として重んぜられ  
る。しかし、健康そのことは必ずしも教育の目的だけのこと  
ではない。その子の健康が目的とせられる時教育になる。或  
はまた、自發が方法原理として重んぜられる。しかし、自發  
そのことは生命の心理である。その子の自發が重んぜられる  
時、教育になる。いずれにしても、その子への心が先決であ  
り主動である。その子への純眞熱注の心、これまごころであ  
り、そのまごころなしに教育そのものはないというのであ  
る。従つて、目的が如何に明かにされ、その必要が信ぜら  
れ、方法が如何に考究せられ、その技術が守られても、それ  
だけでは教育そのものでないことがある。それが眞に教育で  
あるか否かは一つにまごころにあるといえる。

目的なしには教育は迷う。方法なしには教育を誤る。深き用意を要する所以である。けれども、まごころなしに目的に熱なく、方法に力のないのは、それ以上に嚴かな教育の事實である。或は、目的は人に示され、方法は人に教えられても存在し得るかも知れない。しかし、まごころは、その子への私の心であり、私のその子への教育は、こゝにのみ存在する。教育ほど、人に頼まれたゞげや、人を真似るだけで出来ないものはない。要は、どれだけ眞にその子のためを思い念ずるかにある。

教育の心としてのまごころを愛といつてもいい。昔から最も貴い意味において用いられている言葉である。眞の愛は、つまり、その子への私の眞實にほかならない。しかし、わたしたちの愛には、さまざまの場合がある。氣分に止まる場合がある。まごころではない。氣分や好感には、多分に我を樂しませているところがある。彼を樂しませることによつて我を樂しませ、我を樂しませるために彼を樂しませることさえある。必ずしも咎むべきでないとしても、まごころとは全く別であり、まごころと相反することもないといけない。極言すれば、そこには一味のたわむれどころが、ちら／＼しないと見えなからである。まごころは、すなわち教育の心は、本氣である。假りにもたわむれ心でない。

少くも、愛がすべて教育になるとは限らない。時として

は、教育の反對になることさえある。愛には自ら溺れ、相手を溺らす傾きもある。更にその溺れを快しとするところさえある。反教育たらざるを得ない。

まごころは、どこまでも相手のためを主とする。我れを忘れ、我れを苦しめて顧みないのはその故である。教育の志我は、藝術の志我とは異つて、教育三昧に我れを忘れるのでなく、ひたすら相手のために我れを忘れるのである。教育の苦勞は修業の苦勞とは異つて、教育精進に我を苦しめるのでなく、専ら相手のために我を苦しめるのである。教育の心としてのまごころは、かたときも相手を離れない。教育の熱心や興味は、往々にして、教育することの仕事としての熱心や興味に止まつて、肝心の相手を離れることのあるのは、まごころの乏しい爲である。

まごころは、相手に即して行き届く。幼児の教育者が、所謂教育と形のちがう世話に周到なものもその爲である。相手を離れて世話はない。相手に即けば即くほど、世話はこまかに懇になる。教育と名のつくほどでもない、こま／＼とした身邊の世話がせずに行られなくなる。若し、幼児保育者として、幼児の世話に行き届かないものがあつたら、まごころが足りないのである。

まごころは、相手のためにいちずである。幼児の教育者

が、所謂やさしい許りでない厳しさを示すことのあるものもその爲である。相手のために深く思うところに、厳しからざるを得なくなる折々がある。厳しいことは自らに楽しいことではない。決して快いことでもない。それを敢て厳しからざるを得ないのも、相手のための眞實からである。幼児教育者が幼児を叱るのも、その眞實以外の何ものでもない。まごころが無かつたら、うち捨て、笑つてもいられるのを、どうしてもそうしていられないところに、厳しい叱りの言葉も、時として叱りの手さえ出る。それは教育の仕方の理論としていゝことではないかも知れないが、やむにやまれぬまごころであれば貴い。幼児も亦、その叱り方ではなく、そのまごころに感動されずにいないであらう。

まごころは、自分を相手のものとする。幼児教育者が、厳しいこともある以外、いつも相手の相手になりきるのには、その爲である。いつしよに、というよりも一つになつて、幼児と共に遊び、うたい、殊に心から話しあうことは、教育の方法としてだけで出来るものではない。まごころが、幼児のひと言をも、おろそかには聞き流さないのである。その言い足りない言葉の中にある幼児の心もちに、正しくこたえすにいられないのである。ほんとうに幼児に、話せるためにも、まごころがなくてはならぬが、(なんとまごころの缺けている話手のあることだろう)、ほんとうに幼児と話せるためには、まごころなしには決して出来ない。(まごころの缺けたらわの

そらにも近い話相手をするこの、わたしたちになん多いいことであらう)。

子どもは常にまごころである。その點で、幼児を侮つてはならぬ。子どもは常にわたしたちのまごころに敏感である。その點で、うつかりしてはならない。

それにしても、わたしたちのまごころの足りなさが、如何に子どもたちを失望させていることだろう。

失望させるだけなら、まだ責が浅い。まごころへの失望を重ねている間に、子どものまごころそのものを、うすらげ、弱め、次第に失わせてゆくかも知れない責に至つては、教育者としては罪である。人間の貴さは、いろ／＼に數えられる中にも、まごころを以て第一とする。そのまごころを失わせて、なんの教育があらう。一切の他の教育の効果は、その非教育の爲に、うち消されて仕舞うといつてもいゝ。

その反對に、まごころを育て養ひ強められるのは、まごころに觸れるほかにない。わたしたちの小さいまごころも、そのために大きな力をもつ。但、まごころを教育するためのまごころではない。そんな効果意識は、もうまごころでなく、識らないまに行われ、いつとということなく、子どもの心に觸れてゆく。そうして、元來がまごころの持主である子どもを、更にまごころの人間にしてゆく。しかも、それが、幼い子に對する時ほど著しい。

# 現代幼稚園教育の發達

G H Q      ヘレン・ヘフアーナン女史

左の一篇は、ヘフアーナン女史が玉成高等保育學校研究會において講演せられた手稿である。快諾を得て譯載する。ドクトル・ヘフアーナンは兒童心理學及び教育學の深い學識とカリフォルニア州における教育局長としての教育實際上の優れた識見とを以て、總司令部の日本教育指導に參加してゐる。現に、文部省の保育指針編纂委員會にも常に列席して、有力なる指導的地位につかれ、その理解と熱心と、殊にその溫和懇切な態度とは、全委員の親しみと尊敬とを受けてゐられる。わが國の幼稚園進展のために負うところ、極めて多いことを信じて疑わない。こゝに此の稿を本誌に掲載し得ることを感謝し、併せて、譯文の責任が一切本誌記者にあることを明記しておく。(記者)

二十世紀は、兒童の成長と發達における幼時の重要性を、年を追うて益々認めて來た。現代の研究は、性格の基本的型が、生涯の初期の年齢につくられることを指示した。學校の後々の多くの努力も、これら幼年期における兒童の經驗の性質如何によつて、大きく支配せられる。

幼兒のために、如何なる生活が計畫せられなければならぬかに就て、大きな關心が發達し來つた。就學前の幼兒に對する事業は、多くの研究と實驗とを必要とせられてゐる。勿論、固定的法則や取扱方は、どの年齢の兒童に對してもきめられるものではない。わけても、幼兒等に對してそうである。しかしながら、幼兒教育のための興味ある關係事項が兒童發達の最近の研究から多く現はれた。すべての教師は、その幼兒保育事業のために、これらの研究の結果を熟知していなければならぬ。

○就學前幼兒のために望ましい日々

幼兒のために望ましい日々をつくるための主要な内容は次の諸點である。

- 一、豊かな日光と新鮮な空氣との戶外あそび
- 二、廣い部屋の室内あそび
- 三、戶外室内ともに、興味を促す諸材料を用いる機會
- 四、靜かなあそびと共に活潑なあそび
- 五、休息

## 六、食物

### 七、觀察的、鑑賞的、創造的諸經驗

### 八、同年齡の兒童との交り

### 九、おとなの理解ある指導

### 十、おとなの餘計な指圖を蒙らない長い自由時間

あそび仲間というものは、自他わかちあいの機會と、人と調和して働くこと、あそぶことを學ぶ機會を就學前幼兒に與える。幼兒たちには力いづばいあそぶための玩具が必要である。又組立構成のための材料と、箱や厚紙のような用具が必要である。積木は幼兒が使う最もよい用具として役立つ。大きい積木は戸外で、小さい積木は室内で、共に組立用に用いられる。そうして、積木で農場や、家や、町をつくる活動が刺激され促されるために、小さい玩具の動物や貨車や自動車や飛行機が必要である。

幼兒たちは、そのあそびによつて、自分の周囲の生活を取入れ、こうして自分と社會とを結びつける。お人形の家のあそびをし、電車やバスをあそびをし、お店あそびをする。それらのあそびによつて、やがて入るべきおとなの世界の生活を理解するようになるのである。

觀察と質問とは、幼兒の學習の途である。學校はその兩方のよき機會を、幼兒に提供しなければならぬ。愛好の小動物を飼育すること、花園の土を掘ること、繪をかくこ

と、粘土でものをつくること、小石をしらべること、虫類を觀察すること等は日常の興味と經驗に結びついで活動である。先生は幼兒たちが自分の質問に答え得るように助けることを常に用意してはならない。勿論先生は、幼兒が問ひ能うあらゆる質問の答を知ることが恐らく出来ないだろうが、子どもの理解に適切であつて充分満足と與え得るような答えをいつでもさがし出せる出所を知つていなければならぬ。

美術的活動は幼兒たちが最もよろこぶことである。とりわけ、鉛筆畫やクレヨン畫、粘土細工、畫架の上で大判の紙へ大刷毛で描く描畫をよろこぶ。幼兒の場合、創作の過程の方がその出来ばえよりも重要である。どの活動も巧者にされるであろうが、美術的表現の發達における段階としてこそ重要なのである。

おはなしと繪本とは、幼兒たちの經驗を淨化させ、又その見聞、實行とに意味を加えてゆく。おとぎばなしや民俗傳説の類に偏してはならぬ。おとぎばなしを話す時には、先生は、それが事實でないのを子どもたちが氣がつくことに注意周到でなければならぬ。

子どもたちは、いつでも音楽を聴きたがつてゐるし、音楽に反應しようとしてゐる。そして、學校（譯者——幼稚



園の意)に在る間、殆んどすべての時に唱つたり躍つたりする。子どものあそびとしての自發的な唱歌は、子どもの安全感と心のたのしさとの、最もよい證據である。しかも先生は、子どもに音楽をよく聴くこと、リズムを聞き分け又それに反應することを、學ばせ得るのである。先生は子どもたちと共に唱わなくてはならぬ。子どもたちは、人形をねかせながら唱うであらうし、食卓をならべながらも唱うであらう。それらの唱歌は、子どもたちが教えられたものであり、また時として、自分で作つたものもある。これらの珍重すべき小創作こそは、先生がグループ全體の子どもたちと願ちあうことの出来る眞の寶ものといつていい。グループは、みんながそれを覺えて唱うような、人のつくつた小さいうたを、それはく喜びたのしむであらう。こうした経験は、實に幼い創作家のために發達を助ける効果の多いことである。

### ○幼兒たちのために望ましい諸經驗

多くの研究によつて、幼兒たちのために如何なる經驗が望ましいかの方向が決定せられて來た。それらの研究からの幾多の結論は、次の如き諸種の點が重要であることを示すものである。

- (一) 經驗は事實性でなければならぬ。  
いつでも能う限り、子どもたちは直接、かの經驗をもた

せられたい。描畫、粘土製作、園藝、小動物の飼育、料理、園外觀察、いろく(のほんとうの會話、いろく(のほんとうの見學、これが皆、直接、かの經驗というものである。

### (二) 經驗は觀察的のものでなければならぬ。

幼兒のための學校は、幼兒にその身邊の社會を理解させることに、常に助けとなるものでなければならぬ。たとえば、電車の運転手、郵便配達夫、店の人、漁夫、農夫、警察官などの仕事を知ること。

### (三) 經驗は好ましくリズム性でなければならぬ。

毎日のプログラムが、休息、あそび、仕事、それも、美術、組立材料、音楽、おはなしなどの適宜用いられている活動によつてよく按配されていなければならぬ。

(四) 經驗は子どもたちの、それく(の年齢のはたらき力、うけ入れ力を考慮して計畫されなければならぬ。

組の中の子どもたちが、揃つて同じ活動をする必要はない。仕事もあそびも、子どもたちの興味、目的、態度の廣い範圍に應じさせなければならぬ。われく(が個々一人々々の子どもについて考慮する時には、同一年齡の子どもの間に著しい差違のあることがはつきりする。

- 子どもたちの價值ある學習のもと、  
なる諸經驗

(一) いろ／＼の店や公共の場所へ見に行くこと。その外出は近いところでなければならぬし、途中危険のないように、こまかな用心が必要である。

(二) リズム。音楽にあはせた躍りや競技。音楽のまゝに走り、歩き、スキップし、足を高く上げて飛ぶ等の動作。

(三) 休息。休息も亦一つの望ましい経験である。子どもたちは、疲れたことを告げはせぬが、注意深い先生は子どもたちの疲勞の様子に気がつく筈である。

(四) 自由あそび。それには種々のよき玩具類と、梓登り、大積木、箱類、板紙類、砂場等の備品設備がいる。子どもたちには自分で自發し自分できめてことをするようにさせるがよい。指導と見まもりとは必要であるが、おとなの指圖は極く少しだけにする。

(五) 音楽。短い聴取、唱歌、ピアノ又は蓄音器へ太鼓類の簡単な合奏によるリズム樂隊。

(六) おはなし。幼稚園の先生は皆、子どもに話すよいおはなしを澤山もつていなくてはならない。楽しいおはなしによる子ども喜びほど、與え甲斐のあるものはない。

(七) 描畫。大判の紙へ大刷毛で描くことは、子どもたちの筋肉調整を進め、又、自己發表のいゝ手段である。先生は、子どもたちに何を描くべきかを示してはならない。どの子どもも表現すべき自分の觀念を澤山もつてゐる。

(八) クレオン作業。先生は子どもに塗らせる模型を與

えてはならない。これは獨創性を殺すのである。子どもたちには材料を與えて、自分の觀念を描かせればよい。

(九) 粘土作業。粘土は、形をつくる用材として最も價値のあるものゝ一つである。

(十) 興味ある品々。子どもの周邊にある興味ある品々から、すぐれた話あいが生れる。海岸から拾つて來た貝殻、古い鳥の巢、大きな松ぼっくり、美しい秋の木の実等の外にも、子どもたちに有益なものがいくらでもある。そういうものを少しづつの寶ものように持つて來させるがよい。可愛らしい博物館が作り出されるだろう。

(十一) 興味ある人々。警察官、郵便配達夫、特殊な腕まえや得意の藝をもつ人々、ヴァイオリンや手風琴を奏する人、それからまた、蝶の標本を集めている子どもなども、幼稚園へ來てその興味を子どもたちと願つて貰いたい人々である。

(十二) 科學的經驗。子どもたちのための最も豊かな分野の一つは、科學の分野である、子どもたちにはその周圍のいろ／＼のものが珍しい。更に特に科學的興味の多いものゝ幾つかを挙げれば、水族館、小魚、おたまじやくし、磁石、地面や植木鉢のいろ／＼の種子の芽、もえ出る草、昆虫類、繭、かなりや、小動物類。これらのものゝ價値は、先生の想像力次第によつて無限である。

# 楽しい幼稚園の構想

埼玉師範學校教授  
附屬幼稚園主事

井 手 達 郎

幼稚園と國民學校の兩方へ關係する私は、いつも素直で朗かな、そして健康な子供が幼稚園から國民學校へ入つて呉れたらどんなによいだろうと思ひます。勿論この意味は、一般の家庭で誤つて考へるようには、幼稚園の保育が國民學校に入る準備としてでなく、其の時期の子供の心身發達に適應した保育機關として、換言すれば國民學校へ入る手段としての幼稚園でなく、其の年齢の子供そのものを育成するところではなければならぬと思ひます。こうして國民學校へ入つた後は、よい實を結ぶと云う意味で、準備と云う言葉を使うのならばよいと思ひます。

私の望む子供は、幼稚園が子供にとつて「楽しい幼稚園」になつて初めてつくられると思ひます。

## (一) 叱らない保育は素直な子供をつくる

幼稚園の主體はどこまでも園児であります。どんなに立派な建物や設備や費用があつても又經驗ある立派な保母さんが揃つて居られても園児がよくならなければ何にもなりません。園児は純心で誠に神の如き存在であります。

キリストが「子供でなければ神の國に入ることは出来な

い」と云つたのは最もよく子供を知るものと云えましよう。

子供は子供なりにゆがめずに育てたいと思ひます。大人の世界より見れば不完全であり、又無作法であるかも知れませんがそれを無理に大人の型を小さくした子供の型をつくつてこれにあてはまらないから叱ると云う保育の仕方は、「角を矯めて牛を殺す」類であります。子供は決して叱つてはなりません。叱る保育は心から保母に従はないばかりでなく表面的なもので、知らず／＼二重人格の子供をつくることになります。こんな子供は子供自身不幸でありますし、又國民學校に入つても誠に始末の悪い子供になります。子供のいたすらは、誠に無邪氣なものでありますから、叱つたり抑えつたりせず活動の芽をよい方へ轉換させる努力を惜んではなりません。こうした努力が素直な子供をつくることになると思ひます。

## (二) 楽しい戶外遊び

戦争のため戦災をうけたり又敗戦國として物資不足の折柄、設備の點に於て不足の現在は、尙更のこと又都會地帯等で止むを得ず、室内保育が多くなることは仕方ないとしても近くに廣場や公園や其他の遊び場のある幼稚園では、極力屋外保育に努めていたゞきたいと思ひます。子供が如何に自然の子であるかは一度部屋を出て外で遊ぶ子供を御覽になれば納得がゆくと思ひます。

砂場があれば結構ですが、例え其の設備がなくても土いじりは何處でも出来ませす。ジャンゲルの代りに立木をつかい、積木の代りとして木片や石をつかつて立派な遊び道具がつくられます。この子供の創造の世界は實に私達によい暗示を與えて呉れます。子供の生活がよくわかり子供の性格のつかめるところは自由遊びの時であり、わけても屋外保育に於ける子供の遊びの場合であります。御部屋のなかで天氣のよいのに本を讀んだり、くすぶつてこそくしてゐる子供には、明るさがなく元氣のない社交性を持たない子供です。その上健康でない子供の場合が多いのです。暑い時も寒いときも元氣に外を飛び廻る子供は健康な子供であります。どんな立派な人格を持つていても又尊敬すべき人物であつても、身體が弱かつたら社會人として完全な働きは出来ませせん。そのことから云つても戶外で子供に充分な活動をさせたいものです。

### (三) 音楽が樂しめる子供

文化國家を擔い將來文化人として起たなければならぬ子

供は、小さい時から充分耳の訓練がなされなければなりません。音楽の教育は早い程よいと云われています。子供がリズムで器用に動作し、口で云うより音楽によつて素直にすばやく動く子供の姿を見る時、あの子供がよくもあれほど出来る様になつたと、音楽の持つ一つのマジックを見る様な氣がします。楽しい御砂場遊びも、お集りも、御食事も、あとかたづけも、御歸りも、一切がリズムや音楽の進行につれて自然に行われ、これが子供の身につけて行くことは幼稚園保育の最も大切な仕事の一つでありましょう。

この様な音楽への子供の態度が、國民學校の音楽に結ばれてゆくことが望ましいのであつて、幼稚園は國民學校の子供が歌う歌を習わせることでもなければ、そのまねをさせることでもありません。幼兒には幼兒らしい歌の手ほどきがなされ、その基礎の上に國民學校の音楽が築かれてゆくべきであります。私達も氣持のよい時自然と歌を口ずさむ様に、歌のない子供は明朗さが少い様に思ひます。

### (四) 自分自身でする子供

子供が幼稚園で身につけるもう一つの大切なことは、集團生活になれることでもあります。一人息子も、姉妹の多い家の子供も、ぜいたくな子供も、普通の家庭の子供も、幼稚園では一對一であつて、こゝではわがまゝは通りませせん。もしわがまゝを通そうとすると、他の子供に遊んでもらえません。そして譲り會うことの大切なことを知らされます。人に

親切にすれば楽しい遊び、友達がたくさん出来て来ます。この様に子供は子供なりの社會生活をいやでも體驗させられます。家で自分の思う通りに振るまうよりも友達と遊ぶことが面白くなつて来ます。

今迄人手を借りなければ出来なかつた衣服の始末から、お食事やお便所に行くことも、更に御手傳や跡かたづけも、お歸りの用意までも自分でしなければなりません。

又思想畫を描くことや、手技をすることによつて、クレヨンやはさみの使い方の基礎的のものが、しつかり身につくことが大切であつて、うまく描いたり上手につくることが第一義ではありません。正しい取扱方法が身につけばあとは子供の興味と努力が自然に上手にして呉れる筈です。靜かに觀察することにしてもそれが楽しい遊びの中の興味からのものであることが大切で、今迄の様に叱つて靜かになつたものであつたり保姆さんの都合からの躰であつたりしてはならないのです。あくまでも子供が楽しむ遊びの中に生れたものでなければなりません。だいたひ子供は注意力の持續が困難であり、じつとしてゐることが出来ませんから、氣永に辛抱くらべをするつもりで取扱う用意が必要です。

最初に述べた様に幼稚園では、國民學校への智識注入式の準備の必要もありませんが、學校へ入るのだからと云つて、たゞつめこみに五十まで數えたとか、假名が全部讀めたとかを喜ぶ母親がありますが、それは實にくだらぬことで、却つてそれが爲その子供を誤らせることに氣がつかないのです。

そんな準備をするよりもつと生活指導に家庭が協力してほしいと思ひます。

### (五) 子供の爲の保姆さんとなつて下さい

楽しい幼稚園には子供を樂します保姆さんがなくてはなりません。どうか、いつもにこにこと明るく子供と遊べる保姆さんになつて下さい。どうしても云う事をきかない時は、靜かにさとして下さい。子供がなつかない保姆さん、ほんとうに子供が親しめない保姆さんは、楽しい幼稚園の保姆さんとしての資格がなさそうです。手技や觀察や繪や紙芝居や御話や遊戯もさることながら、ほんとうに子供がわかるのは自由遊びの時です。その大切な時に子供を放任して何か用事をしている保姆さんは居ないでしょうか。私は自由遊びの中の子供の生活をもつと研究していただきたく思ひます。

次に子供をほめることを忘れないで下さい。どんなに下手な繪を描いても、歌が上手でなくても、遊戯がまずくとも、動作がぶくても心からのほげましを子供に與えて下さい。どんなに力がつくことでしょうか。そしていじらしいまで元氣な子供になつて行くことは間違ありません。子供が一日でも幼稚園に來ない日があれば、どうしてもその子の家庭を訪ねずには居られない子供への愛情、即ち母親のあの愛がほしいのです。然しその愛は盲目の愛では勿論ありません。子供を正しく伸ばす爲の眞實の愛がほしいのです。どんな頑な子供の心もとかし、どんな氣の弱い子供にも、元氣の泉をあたえ

る深い愛の持主となつていたと思ひます。敗戦後の今日、設備も費用も不十分でありますが、たつた一つこれを補うものがありとすればそれは實に保母さんの子供への愛情だと云えます。この愛情が保母さんであれば、ないないすくしの中に立派に新しい日本を背負つて立つ子供になつて呉れることを確信してゐます。そしてその愛情は幼稚園だけでなく、國民學校に入つた後もなくなるものでなく、幼稚園時代の實態としての保育記録はそのまゝ國民學校教育の教育に役立つものでなければなりません。又反面國民學校からの觀察の結果を知らせて貰ふことによつて、次の保育に精進する力となるものでなければなりません。

最後に國民學校教育への御願があります。今日の國民學校教育の中には、案外保育の効果を輕視される方の多いのは誠に残念なことであります。『まあ幼稚園から來れば集團生活の結果多少なれてるので家庭より初めて入學した子供に比べてよいが、そのうち區別がなくなりますよ。』と云うことを平氣で云う人があります。この教育は、折角幼稚園で啓發した集團生活への芽生えを伸ばすことを忘れて未經験の子供にのみ氣をとられた結果、悪い意味での劃一にして喜んでいるのであります。折角身についた生活への芽を育てあげるのが今日の教育ではないでしょうか。幼稚園から來た子供は慣れずぎていけないと云うが、その長所を伸ばす工夫をせず、又正しい方へ向かわせる努力が考慮されずに、保育の効果について

近視眼的であることを残念に思うのであります。私は現在の國民學校の教育が、もつと眞剣に幼児教育を研究しなければ、到底低學年教育の効果はあがらないばかりでなく、保育の効果まで減殺して竹に木をついだものにすることを恐れるものであります。かゝる缺點を除去するには、前述の様にもつと國民學校教育に保育を研究していただくことも一策ですが、より望ましいことは就學前保育した保母が教育としての實力を持つて、引つゞき國民學校一年の擔當教育となること  
が理想的だと思つておられます。

(一五五よりつづく)

歌わせたりするような場合、できるだけこれをそのからだのはたらきにうつたえて味わわせるようにすることが、極めて自然であり、また有效であるということになる。

幼稚園などでよく一つの唱歌を歌わせ、それに大人の人のつけた遊戯を教えているのを見かけるが、私は特に音楽や遊戯に興味を持つて居られる幼稚園の先生方に一つの提言をし御研究をお願いしたいと思つておられる。

それは音楽を聞かせたり、唱歌を歌わせたりする時に、お子さん方の身體的な活動が或る型にはまつた振というものに支配されないで、もつと自由に表現されなくてはならないのではないか。そしてそれが靜かに音楽を聞くとか、先生の口眞似をして歌のふしや言葉を感じるということに先行しなくてはならないのではないかと云うことである。もちろん大人のつくつた振を教えるということにはまた別な意味があるうが、自由を喜ぶ子どもたちの遊戯性をたつとぶという意味からもこのことを深く研究していただきたいと思つておられる。

# からだで味わう音楽

東京高等師範學校教官 井上武士

## (一)

つつしみ深い紳士淑女は、身うごき一つしなないで靜かに音楽を聞いている。そして音楽が高潮に達すると、眼をとじ、ため息をついて深い感動の氣持をあらわす。ところが音楽的な修養のあまり深くない、純真な大衆は必らず指先とか、足とか、時によると軽く頭をふるというようながらの運動によつて拍子をとりながら音楽を聞いている。

いわゆる紳士淑女は音楽的によく訓練された耳によつて直接に音楽をとらえ、そのままこれを心に傳えるのである、しかし大衆は音楽のリズムや旋律の動きを一應そのからだの運動にあわせ、そのからだの運動を媒介としてこれを心に傳える。まだあんよもできない赤ちやんに輕快なマーチか舞踏曲を聞かせた時、赤ちやんはきつと手や足をうごかしてあばれ出す。そしてじつと見ていると、その手や足の運動を音楽のリズムにあわせようと、もがいているようにさえ思われる。

そろそろあんよのできるようになつた赤ちやんは、決してじつとして音楽を聞いているものではない。必らず手をうごかしたり足をうごかしたり、愉快な音楽になるとおどり出し

たり、場合によると何か歌い出したりする。音楽的な素質のある子ならば音楽のリズムをはつきりとつかみ、それにしつかりとあわせて上手にからだをうごかし、音楽の抑揚や緩急さえもこれをうまく表現する。ハイドンの父は車輪をつくるかじやだつたが、ハイドンがまだ小さい時、お父さんが仕事場で一服やつていると、お父さんの小さい槌を持つて輪金を打つて遊んでいたそうである。その打ち方がとてもおもしろく、リズムカルだつたので、お父さんは、お母さんに向い「この子は音楽の天才かも知れないよ」といつたということである。少し大きくなると村のお祭の時などハイドンが大人の人にまじつて樂隊をやるようになり、それが實にうまく太鼓を打つた。ところが大きな太鼓を自分で持つことができず背むしの男にしよわせ、そのうしろからハイドン少年が得意になつて太鼓を打ちながら村中ねりあるいたという興味深い話が傳えられている。

幼稚園ぐらゐの子になると、何か音楽を聞くと、それを身ぶりに表現しようとする。

このように音楽を聞いて、それをからだの運動に表現しよ

うとするのは、實は音楽を運動に表現するというのでなく、逆にそのからだの運動をとうして、音楽をその心に傳えようとするのだと私は考える。

大衆が音楽を聞くとき、指先や爪先でしらすしらすの間に拍子をとっているのも、赤ちやんが音楽を聞きながら手足をもがくのも、また幼稚園のお子さん方が音楽にあわせておどり出すのも、結局はその音楽の中に流れているリズムをとらえ、それをからだの運動にうつし、それをとうして音楽を心に傳えようとするのである。

## (二)

一般に音楽は精神的なものだと考えられている。そして『作曲家の頭』というようなことがいつも問題になる。一體音楽というものは作曲家の頭、即ち作曲家の精神から生れるものであろうか。

作曲家は鉛筆をにぎつて五線紙の上に樂譜を書く。といつても誰も鉛筆が作曲しているとは思はず。鉛筆をにぎっているのは手だから、作曲家の手が作曲していると考える人もないであらう。その手は結局作曲家の頭、即ち作曲家の精神から生れ出る曲を書いているのだから、作曲をしているのは作曲家の持つてゐる鉛筆でも、手でもなくてその頭——精神だということになる。

結局作曲をするのは、作曲家の頭——精神ということになるのであるが、それではその精神は作曲家のからだだと全く分離してゐるのであろうか。われわれ人間の精神はその肉體と

全然分離しては存在し得ない。作曲家の精神も、そのからだに つつまれていてちよつとした作曲をするにもその精神のはたきはからだの支配を受けているのである。それは作曲家自身が自覺するのと否とにかかわらずしらすしらすの間からだの支配を受けて、それが作曲という形で表現されるのである。音楽には二拍子とか三拍子、四拍子、六拍子というようにいろいろな拍子があつて、二拍子ならば「一二、一二」と強い拍子と弱い拍子とが、規則正しく反復されながら進行していく。作曲するときはこの規則正しい拍子を決定するものは結局作曲家の精神のはたきであるが、しかしそれを決定させるものになつてゐるのは作曲家の精神をつつんでゐる作曲家の肉體である。

われわれ人間のからだにはいろいろな生理的現象がある。呼吸、脈搏、歩行等、いろいろな生理的現象や、からだの活動はからだの構造の支配を受けて、常に正しく規則正しい「型」即ちリズムを持つてゐる。

まず呼吸をとり上げてみようか。呼吸は年齢や體質や、からだの状態によつて速いこともおそいこともあるが、息を吸うと息をはくのとこの二つのはたきを規則正しく繰り返してゐる。脈搏も同様、心臓の瓣膜の開くのと、とじるのとこの二つのはたきに應じて正しいリズムをくりかえしてゐる。このはたきには年齢や體質、またはからだの状態によつて速度はちがつても心臓のはたきにかわりはない。生れてから——嚴密にいえば生れる前から——死ぬまで、夜も晝も



休むことなしに正しくリズムを運んでいるのである。

われわれの歩行も同様である。誰が足の二本あるという自然にそなわつた構造を無視して三拍子や六拍子で歩く人があろう。左足と右足を交互に出して自然に正しいリズムをくりかえしながら歩く。もちろんわれわれ人間もダンスホールでワルツやメヌエットをおどる時には「一二三、一二三」と三拍子の歩行をつかうが、これは自然の歩行ではなくて藝術的に理想化した形式の歩行である。この場合には足は二本という基本的な原理を適當に處理しなくてはならない。

廣くいえばわれわれ人間の生理的現象や一切のはたらきは陰と陽との二つの部面を持つているのだと考へる。更にこれを廣く考へてみるとこの生理的現象や肉體的活動はあらゆる自然界の現象に支配されている。朝と夕、晝と夜、山と河、天と地、火と水、夕と冬、春と秋、これらのすべてが陽と陰との形に於て、われわれ人間を支配し、しかもそれが正しいリズムに整理されている。

なるほど自然界の現象は千變萬化であるが、その中には永世不變の正しいリズムのあることは誰もこれを否定することができない。

このように正しいリズムを持つ自然の中に生れ、生き、生活をしてゐるわれわれ人間の肉體と精神とは、その支配を受けてやはり正しい運行をする。

作曲家の頭から生れ出る音楽とは、結局このような深い因縁をたどつて、そのからだのはたらきの中から生れ出るもの

だといふことができるであらう。大天才があらわれて、前人未踏の新手法を發見したように見えても結局はこの天然自然の理法をわれわれ人間の肉體と精神とが許容し得る範圍内に於て、藝術化し、理想化したものに過ぎない。

### (三)

つまり音楽は人間の精神から生れるものではなくて、實はそのからだの一切のはたらきや活動の中から生れるものと信ずる。それは決してリズムや拍子の問題についてだけいわれるものではなく、旋律の抑揚も和聲の進行もみんなその支配を受けてゐるのである。

このようにしてからだから生れた音楽は、からでで味わうのが當然といわなければならぬ。大衆が指先や爪先で拍子をとつたり赤ちやんが手足をばたばた動かしたり、幼稚園のお子さん方が音楽にうかれておどり出したりするのは、結局このからだから生れた音楽をからだで味わうための一つのいとなみだとかたく信ぜられる。つつしみ深い紳士淑女もなるほど身うごき一つしなないかも知れないが、そのからだの中にはきつとしらすの間に動かされている部分があるのである。聲樂を聞いてゐるとのどの筋肉が緊張したり弛緩したりして自分にも歌つた時と同じような疲労があるというではないか。どんな人でも心や耳だけで音楽を味わい得るものではない。

この意味に於て、幼稚園の子に音楽をきかせたり、唱歌を

# 幼児保育に關する新らしい法律案

厚生省民生局保健課

副

島

ハ

マ

保母さん達は子供達を持つ母親の姿そのまゝに、自らの時間と精力と、持てるものの凡てを惜しみなく捧げて、而も僅かばかりの手當に甘んじ、長時間の過激な心身の勞働に堪えて居られるのでありますが、今迄の國家は、社會は、この幼児達の守護天使である保母に報ゆるに何を以てしてではありませんが。國家の將來を擔う幼児教育の重要性も認めず、従つて保母に社會的地位も相應の待遇も與えず、殊に最も幼児教育の必要性が認識されねばならぬ最近に於ても、施設の擴充はおろか罹災した幼稚園、保育所の復興も等閑視し、保育内容の貧困、資材の不足等の問題をも放置して今日に到つたのであります。

然し保母は毎日の幼児達との生活に充分な満足を見出し、一般社會よりの理解ある言葉と、眼ざしを得ずとも自らの仕事の意義に慰められて過して参りました。又、社會的に、國家的に、自分達の仕事の重要性を訴える餘裕がない程毎日の生活でくたくさに疲れ果てて了うのであります。そしてその保母の中の百分之にも満たない僅かな人々が、自分達の仕事を輿論に訴えるべく努力して來たのであります。組織

を持たず、團體としての力をもたぬものは、その勞多くして、その殆んど凡てが無駄な努力に終つたと言つても過言ではありませんまい。而もそうした多くの捨石が積み重ねられ、漸く幼児保育も社會的に芽をふき初めたのは極く最近の事でありませう。でもそれはたゞ單にその緒についただけでまだまだ私達の願う所迄は前途りよう遠と言う感がします。私達は今もつと積極的に國家に、社會に、自分達の職場から得た幼児教育の諸問題を訴えるべきではないでしょうか。

さて、そうした幼児保育と保母の問題を、二つの法律案の中に取り上げようとして居る事は大いに慶ばしいことであると思います。それは既に御存じと思ひますが、文部省の學校教育法案の中で幼稚園が、厚生省の兒童福祉法案の中で保育所が取上げられます。學校教育法案は内閣總理大臣の諮問機關である教育刷新委員會で審議されたものであります。

兒童福祉法案は厚生大臣の諮問機關たる中央社會事業委員會で審議されたもので、この法律案でも乳幼児の保育の爲に國家的な努力を拂おうとしています。従來厚生省に於ける託兒所の補助は社會事業法による施設に對して行われたもので

ありましたが、この法律案の劈頭に、

すべて児童は心身ともに健やかに育成されるために、必要な生活を保障され、その資費及び環境に應じて、等しく教育をほどこされ、愛護されなければならないこと。

すべて國民は、児童が心身共に健やかに生れ、且つ育成されるやうに努めなければならないこと。

すべて児童の保護者は、児童を心身共に健やかに育成する責任を負い、必要あるときは國が保護者に代つてその責任を負うこと。國及び公共團體は、保護者の責任遂行を積極的に助長し、そのさまたげとなる因子を排除するように努めなければならないこと。

とあります様に、國全體の子供の心身の健かな育成を願つて、作られたものでありますから、保育所令確定後でないといわかりませんが、従來の託児所よりも少し廣範圍に、保育所が設置されることになると思われます。今この法案中、保育所關係の所を抜萃しますと、

一、公共團體又は私人は、命令の定めるところにより行政官廳の認可を受け、又は行政官廳に届出で、保護者の委託する時間中乳兒又は幼兒を保育するため、常設又は臨時の保育所を設置し得ること

行政官廳は前項の届出のあつた保育所に對して、必要な命令を發することが出来ること。

厚生大臣は中央兒童福祉委員會の意見を聞き、都道府縣に對し、市町村に對し、保育所の設置を命ずることが出来ること。

ること。

保育所に關しては、この法律で定めるものの外、勅令でこれを定めること。

二、保育所は乳兒又は幼兒の保護者が、その乳兒又は幼兒の委託を願ひ出るとき、これをこばむことができないこと。但し、命令の定めるときはこの限りでないこと。

保育所は乳兒又は乳兒以外の兒童の保護者が、その兒童を保育所に委託することを願ひ出るとき、その委託を妨げることが出来ること。

三、保育所は委託を受けた兒童の心身を保護育成し、その兒童の保護者の保育の負擔を補うこと。

四、保育所には保姆を置く外、なるべく醫師、齒科醫師、又は保健婦を置くこと。

前項の保姆の任用條件、教育施設、その他の事項に關しては勅令でこれを定めること。となつています。

皆様がよく御存じのように、従來幼稚園は文部省の幼稚園令によつて地方長官の認可を受け、教育的指導に重點を置き、託児所は社會事業的見地から、乳幼兒を抱えた母性の保護を主な目的として發足し、厚生省の所管となつていました。が、現在の社會情勢から見ますと、幼稚園保育の対象であつた幼兒の親達は、却つてインフレ難に喘ぎ、託児所の對象であつた比較的下層階級の人達は、所謂新階級として經濟的に豊かな生活をしている有様で、會つての經濟的階級

差別と言ふものは、なくなつたも同様です。そして幼児保育施設は幼稚園であれ、託児所であれ、同様な教育的内容をもたなければならぬこと、又その經營が何れも困難になつて來てゐると云うことが出來ましよう。亦一方、私達は幼児教育者として、長年、幼稚園、託児所の一元化を願つて來ました。等しく國家の將來を擔う國家の寶である幼児達に、階級差別的な感じを興えることの非を力説し、當局に陳情、建議等して參りました。今新しく、文部省と厚生省とが、學校教育法案と兒童福祉法案との二つの法案に於いて、別々に幼児保育施設を認めることになれば、從來の弊害が愈々濃くなるのではないかと案ぜられます。がこの爲に當事者は再三協議し、名前は別個のものであつても、教育的指導と厚生指導との協和連絡が行われることを考究されています。

然し、尙多くの問題が残されてゐないわけではありませぬ。それは満四才（或は三才）を限度として、兩省所管を別にするともいふと思われませんが、今のような社會情勢では、現在日本の幼児保育は全然文部省の教育的立場からばかり扱ひ得ないもの、即ち保護の對象になる家庭の幼児達を收容する施設がどうしても必要であり、却つてそうした施設が社會的にはつきり浮び出ることになれば、その施設の幼児達は現在以上にはつきり差別的感じをもつて見られ、扱われる結果となり、それは現在より更に面白くない状態になるだらうと豫想されます。

從來、大正十五年改正の幼稚園以外に幼児保育に關する法

令も、勅令もなかつたのですが、この度國家の法律で幼稚園、保育所が公の施設として認められて來たこと。これは私達保育關係者にとつて實に喜ばしいことであります。が結局この法律が生きるか、死ぬかと言ふことは幼児保育關係者の肩にかゝつた問題であると思ひます。お互に自重し、勵まし合つて斯界の爲に、益々精進したいものであると思ひます。

最後に私達の眞に理想とする幼児保育の在り方——家庭經濟狀態や、其の子の素質如何に拘わらず、差別なしに保育される狀態・經營、經濟的理由等で保育がゆがめられることのない狀態・保姆が生活を保障されて保育に専念出来る狀態——は幼児教育が國家の義務制になつた場合に於いて、初めて實施され得ることだと思ひます。教育刷新委員會に於いても、幼稚園が義務制となることを要望すると云うことを、進言してあると聞きましたが、一日も早く其の日が來ることを期待してやみません。それには先ず、前述の二つの法案に於て躍進した幼児保育が、質に於て、量に於て、大いに擴大され、義務制の行われる日に備へたいものであります。

（昭三三・二・一一）

# 保育の實際

## 遊戯「ごもんのまえ」

作詞 倉橋惣三

作曲 弘田龍太郎

振付 戸倉ハル

ごもんのまえの  
ささのおふねは

あめのかわ  
どこへゆく

となりのうちの  
あかいおべで

はなこちゃん  
のるだろか

つぎのとなりの  
しろいぼうしで

じろうちゃん  
のるだろか

隊形 一列圓形  
動作

前奏 四小節(十二呼間) 靜かに聞く

ごもんの

(一)

手をつなぎ軽く上下に振りながら、頭を左(右)に廻して膝を軽く三回屈伸する(隣生と語り合う様子)

前の

頭を右(左)に廻して「ごもんの」と同じ動作を行う。

雨の川

「ご門の前の」と同じ動作繰返す

笹のお舟は

連手をとき、體の前で手を合わせて舟の軸をつくり、圓心に六歩進む(舟が水を切つて進む様子)

どこへ行く

拍手六回しながら六歩さがる

間奏

四小節(十二呼間) 手をつなぎ圓周上を左に歩く

(二)

隣のうちの花子ちゃん (一)の「ご門の前の雨の川」と同じ動作を行う

赤いおべで

兩臂を交叉して胸に當て、膝を軽く六回屈伸しながら、兩手で軽く胸をたたく(六回)

乗るだろか

足踏しながら拍手を六回行う。

間奏

前と同じ

(三)

次の隣の次郎ちゃん (一)の「ご門の前の雨の川」と同じ動作を行う

白い

兩手を頭に左(右)を向く

帽子で

「白」と同じ、右(左)を向く

乗るだろか

足踏しながら拍手を四回行う、(合はせた手は、其の儘一呼間保ち、三拍目の音でおろしてもよいし、又別の合圖でおろしてもよい)

ゴモンノマエノ

倉橋雄三作詩  
平井保喜作曲

たのしく

Piabo *f*

The piano introduction consists of two staves. The right hand plays a melodic line with eighth and sixteenth notes, while the left hand provides a harmonic accompaniment with chords and single notes. The dynamic is marked *f* (forte).

*Smf*

1. ゴモンノマエノアメノカワ  
2. となりのうーちはなこちゃん  
3. ツーギノトナリノジロウチャ

*mf*

The first system features a vocal line with two verses and a piano accompaniment. The vocal line is marked *Smf* (Soprano mezzo-forte). The piano accompaniment is marked *mf* (mezzo-forte). The lyrics are written below the vocal line.

1. 2.

サノオハドユク  
アカイオベデのるだろか  
シロイボウシヂ

The second system continues the vocal and piano accompaniment. It includes a first ending bracket labeled '1. 2.' and lyrics for two verses. The piano accompaniment continues with a steady accompaniment.

3. *rit.*  
ノルダロカ

*poco a poco rit.*

*D.S.*

The third system concludes the piece with a final vocal line and piano accompaniment. The vocal line is marked *rit.* (ritardando) and the piano accompaniment is marked *poco a poco rit.* (poco a poco ritardando). The piece ends with a *D.S.* (Da Segno) instruction.

# 母と語る

(3)

## 倉橋惣三

○わが子の新入園は、子どもばかりのことではなく、親もいつしよに新しい生活に入ることだといわなければならぬ。幼稚園はただ幼児を預るところでないのは勿論、幼稚園だけで幼児が教育出来ることはない。母が忙しいから、すなわち、家庭教育が充分に行われ難いから、幼稚園で補うということはある。しかし、そういう場合でも、母の方から言うて、補つて貰うからそれでいいという譯のものではない筈である。實際は手が足りず、或は物の足りないことがあつても、母の心が足りないでは済まされない。世間のことでも、人に助けて貰うから自分は任せつきりで平氣ということはない。人に補つて貰えば、自分はいよ／＼心を使わずにいられないものだ。わが子の入園と共に、母の新しい生活が初まるというのも、この意味である。

○特に忙しい母の場合は、それに應じた特別としても、もと／＼幼稚園は、幼児の教育を母と協力して完成させようとするところである。つまりは、親と先生との共同體といつてもいい。アメリカではそこを組織化して、「親と先生との會」というものが、幼稚園（小學校でも）に必ずある。わが園でも是非それがほしいが、そういう組織があるなしに拘らず、親

と先生と、常に教育に協力しなければならぬ。互に教育の方針を理解しあい、互に教育の方法を研究しあい、互に教育を正しく分擔しあつてゆかなくてはならない。

○「親と先生の會」の活動は多く又廣い。そのことは暫く別としても、わが子の上に就て、親が先生と、最もよく話あひもし、打合せもし、責任をわちあひもすることは、餘りにも當然なことである。教育の研究や經驗においては、先生は學問家である。多くの親は及ばないであらう。しかし、わが子を思う心、わが子を知ることにおいて、親は先生以上の筈である。先生よろしくお願ひしますで、頼みつきり、任せつばなしでいられないし、いていゝものではない。

○特に、終日終夜忙しいというでなく、氣の毒な事情のためにわが子を顧みられないというでもない家庭としては、幼稚園入園と共に、寧ろ母の教育的關心や努力が、一段と多くなるべきものと考えていゝ。少くも、そうであつてこそ、幼稚園の教育の効果が一層多くなるのである。というのは、幼稚園の責任を少しでものがれようとするのではない。幼稚園で教育して呉れるから、その分だけ家庭で教育をへらす。甚しきはやめるから、その分だけ家庭で教育をへらす。甚ことになるか。こんな無駄な話はない。

○幼稚園を幼児教育の専門家だと思つて、わが子を通わせるのなら、その幼稚園から親も學んでいゝ筈である。學ぶといつては適當でないかも知れないが、考えさせられ、注意させられるところもある筈である。(それが少しもないような、つ

まり親から見て全く敬意を拂うに足りないような幼稚園へ大  
切なわが子を通わせる筈はない道理からこういえる。しかも  
それは、幼稚園がえらいからというよりも、わが子の親とし  
ての、母の反省から出ることである。親とは、わが子のため  
に、自ら足りないところあるのを常に心配しているものであ  
るから。

○幼稚園で考えさせられ、注意させられるといつても、必ず  
しも、教育の方法上のことばかりではない。先ず、わが子を  
大勢のほかの子の中に置いてみて、わが子がどんな子どもか  
ということが初めてよく分るのである。家庭でわが子ばかり  
を見つめている親としては、わが子かわいさに、わが子のい  
るところばかり気がつき、わが子の缺點が気がつかない。い  
るところというのも、狭い自己流の見方からであり、缺點に  
気がつくとしても、いつか見方がまひしてしまつたりする。  
それを、いろいろのほかの子とくらべてみ得る時、今更のよ  
うに、わが子の長所短所がはつきりして来る。幼稚園はこの  
點でも、親にとつての大きな學校である。

○更に、わが子の長所短所がはつきり見えた時、それが何故  
そうなのかという原因を、考え又注意せずにはいられなくな  
る。ところで、その原因というものは、淺くも深くもさまざま  
まであるが、親として一番考えさせられ、注意せずにはいられ  
なくなるのは、わが子の上に及ぼしている自分そのものであ  
ろう。あのいゝお子さん。その母に會つてみて、なるほどと  
うなづかれるし、その家庭をよく聞いてみて、あらそわれな

いものだと感心させられることが稀でなからう。

○幼児も、教育性の濃いところ、教育性の廣いところへ入園  
したのである。どうも淺くなり易く、狭くなり勝ちな母も、  
わが子といつしよに利用すべきいゝ機會であるまいか。こと  
によつたら、母が先ずその機會を利用することによつて、わ  
が子の入園が眞に入園になれるといつていゝかも知れない位  
である。

○以上のことは、お子さんが小學校に入學せられてからも同  
じである。或は幼稚園以上かも知れない。幼稚園の入園は、  
その手はじめとしても、注意が必要である。そんな譯で、少  
々強い語氣をおゆるし下さい。幼稚園に預けつばなしの家庭  
も無いといえないからです。

○幼稚園の先生は、そのこまやかな心を以て、次から次へと  
お子さんの世話をしたくなる。世話の行き届くことこそ、保  
育者の任務だということも忘れない。しかし、幼稚園として  
は、家庭の受持つべき部分を殘しておくことも忘れてならな  
いともいえる。あんまりいゝ先生になつて、だめな母をつく  
つてはならないといつたら、少々皮肉に聞えそうだが、よき  
母のみが、先生を一層よき先生にするということはお母さま  
ま方に考えていたゞきたいことでないでしょうか。

○どつちにしても、幼稚園が家庭により、家庭が幼稚園によ  
り、互に力づけられてこそ子どもは一番よく教育せられる。

X

X



## 病氣のくせ

現在、特別にある病氣にかゝつていないときに「うちの子は病氣にかゝり易くて困る」とか「うちの子はかぜにかゝり易い」とか、「胃腸の弱い子」「おできが出來易い」「蕁麻疹のくせ」がある、「おねしよのくせ」とか何にかその小兒にある特別の體質が素因ともいふべきものがあるように考えられている。事實、蕁麻疹の如くある特定の物質例えば鶏卵を食べると必ず皮膚に癩痒性の丘疹が發現するような素因のある小兒もいる。スタロプルス（滲出性體質）が一卵性双胎兒の双方に發現し、二卵性兒では一方のみに現れたという報告もある。何にかその素質が遺傳性であると想像せられる。そうするとこの子は胃腸病に弱い型、この呼吸病に弱い型、あの子は何型というように幾つかの型に分類出來れば小兒を育てる上に誠に便利である。しかし、病氣に對しては未だ體質學はそこまで實際的には完成されていない。従つて日常、訴えられるいゝの病氣の傾向もよく觀察するとそれが眞に體質的のものとして現在慢性疾病の経過中のもの、或はその系統の臟

醫學博士 廣 瀨 興

器が特に弱いために僅かの變化や刺戟のために易く病的狀態にまで進行する場合など種々の種類が混合されているのである。それ故、實際問題としては一見同じように現われる病症も眞の原因が何にかということをよく觀察してそれに則した處置をすることが賢明であり、現在の醫學としてそれ以上望むことは困難であらう。そこで、こゝにはいろいろの病氣のくせを上げてその種類、原因と處置を述べてみよう。只、一言付け加えておきたいことは現今、漸くある病氣に對しその抵抗力と遺傳的素質というものが重要視されて來たことである。結核にかゝり易い家系、腦溢血の血統というような俗間の言葉で理論立てようという傾向が認められる。

## 一 ひきつけのくせ

(い) ひきつけ(痙攣)。はしばしば經驗するくせの一つであるが、これにはいろいろの種類がある。一般に幼若な小兒では大脳皮質の發育が不充分で、この部にある反射抑制中樞の機

能が完全でないために僅かの刺激で容易にひきつけを起すのである。例えば熱發の際、年長兒や大人ではぞく／＼したり、ふるえが起るようなとき乳幼兒ではすぐひきつけを起してするのである。内因的に一觸即發状態にありそれに種々の外因が作用し易いため、外因としては發熱、胃腸障害、寄生虫や病原菌の毒素、恐怖の如き精神作用などである。しかし、同じ病氣にかゝつてもひきつけを起すものと起さぬものとあるから同じ即發状態にあるといつても、ひきつけを起し易い素質のあることも考えられる。

かように、腦や腦膜に一定の器質的病變化のあるときと病變がなく官能性のもので痙痲の場合の如く反射性のもので、てんかんのやうに全く特發性にくるものもある。こゝには著しい病氣の経過中にくるものを除いて主として平素小兒が日常生活の中に時々、突然ひきつけを起して、母親や保姆を驚かすような場合を述べて見よう。

(ろてんかん(眞性癲癇)。よく注意しみれば前驅症狀がある。即ち小兒は過敏となり、だるそうに、あくび、耳鳴、目まい、胸苦しさや訴え、之に次いでその眼目を一つ所に見つめ、叫び聲をあげたり、大息を發したりする、次でその意識は全然消失して地に倒れ全身筋肉の強直性のひきつけを起す。下肢は伸し上肢は曲げたり、若くは伸したりして僅かに數秒から半分間ほど續けるのを見る。顔面は初め蒼白であるがだんだん潮紅し或はチアーゼ(紫らん色)を呈してくる。頭首及び眼球は一側に回轉せられ、眼目は閉じたり或は開く、

瞳孔は散大し光を投じても縮小しない。呼吸は早く不正となり、呼出す息は淺く、脈搏は早くなるが必ずしも不正とはならない。口腔からしばしば泡沫を出したり、舌を咬んだりするのが一つの持調である。

かような強直性けいれんに次いで間代性のけいれん期となり時々思ひ出したように頭首、四肢、體驅の諸筋肉がけいれんを起し、チアーゼも徐々に消散し、喉がゼロゼロいうようになり、尿、大便をもらしたりする。五分間位でこのけいれんも去り呼吸も安靜となり熟睡するようになる。

以上のようなけいれんはてんかん發作の定型のものであるが、時には不全發作もあつて、小兒はその顔色を變じ凝視狀の顔となり、近くのものや人に觸り、よろよろしたり、べつたり地面にしやがんだりする。かくして一分間位の後再び平常の顔つきにかえり、普通の應答もできるようになり今まで何が起つたか知らぬものようである。其他、急に一時人事不省になり顔面四肢などの筋肉がびくびくけいれんを起すが甚だ速かに安靜となり次で睡眠に入り、しばらくして目ざめぬようなものもある。このような不合發作の代りに軽い暈動刺戟症狀を現わしてることがある。即ち同一筋簇にのみ電擊性けいれんを起したり、點頭てんかんといつて思ひ出したように頭の上下運動をするくせのある兒がある。

尙、精神性代理症といつて時々定期的に、憂うつ、興奮、不従順、遊戯心消失、憤怒などを現わし、或は強迫的逍遙、夢中遊行を起すようなてんかんもある。

處置としては、かようなくせのある兒は家庭でも幼稚園保育所でも危険のないような所で遊ばせること、發作が起りそのときは齒列間に手巾を挿入し、シャツをゆるく開き自由に呼吸のできるようにする。餘り長く發作がとゞくくせがあるならば平素、抱水クローラルの洗腸液を醫師よりあずかつておき洗腸してやるがよろしい。

豫防として外科的腦手術も行われているが未だ安全とは信ぜられない。平素衛生に努め刺戟をさけるような生活をとりしめるより方法がない。耳鼻疾患の治療、寄生虫の驅除などは必ず行ふべきである。

は、ヒステリー。小兒にも時々ヒステリー性のけいれんを起す。てんかんのけいれんと異つて、徐々に靜かにくずれるが如く倒れる。従つて外傷を受けることなく、舌を咬むこともない。顔面もてんかんの如く蒼白となつたり、チアノーゼを起すこともない。けいれん性の叫聲や笑聲をつゞけ、意識障害はあるが人事不省とならない。發作の持續時間は永く三〇分から一時間も續くことがある。ヒステリーの方は暗示や催眠術により人工的に發作を起し得るがてんかんの場合は影響がない。

(に) 佝僂病兒のけいれん。日光の不足、ビタミンDの缺乏するときはくる病性體質となり、けいれんを起し易くなる。意識消失も伴う全身性又は限局性の筋肉攣縮の發作で人工榮養兒に多く人乳榮養に移行すると治ることがある。多くは雜乳期前後ではあるが年長兒にもけいれん性素質の原因をなし

ている。

は、(ほ) 蛔虫症。蛔虫の毒素によりけいれんを起すことはしばしば遭遇する。平素食事に關係なく腹痛を訴えたり、偏食甚しく神經質であつたりして他の蛔虫症の症狀がある。檢便して完全に驅虫する必要がある。特に戦時中より都會人の生活が不衛生となり田舎への疎開などで蛔虫の感染の機會が多かつたため、近頃は田舎の小兒に劣らず罹患率が高い。従つて蛔虫によるけいれん素質も多いわけであるからけいれんのかせがあつたら先ず蛔虫症ではないかと一應疑うことが賢明である。

## 二 手足の痲痺

上肢や下肢の運動が普通でなく歩行や手の運動に特有のくせの現われることがある。歩行の初めに氣付いたり、感冒發熱後に現われたりする。痲痺も弛緩性の場合と強直性の場合もあり神經系統の中樞と末梢部の病變によつて種々の障害が現れるためであつてその診斷は専門醫にまかせるのであるが、リットル氏病(腦性痲痺)は兩側の下肢は起立させると大腿を内轉して交叉し母趾の尖端で床上に立ち歩行期に氣付く、又、普通小兒痲痺といつているハインネ・メヂン氏病(脊髓性小兒痲痺)は内側の下肢又は一側の下肢(上肢は稀れ)がダラリと弛緩しヒキズルように歩行する。多くは數日の發熱の後にくるが時には平素と變ることなく就床し朝起きて見たら下肢の痲痺していて驚いたという例もある。

### 三 發熱のくせ

(い) 便秘。幼児では單純に便秘するだけで三八度三九度位に發熱することがあるから原因不明の發熱のときは一應洗腸することが賢明である。洗腸にはイチヤク洗腸のやうなもので、グリセリンと溫湯等分を二〇瓦か三〇瓦又は普通化粧石鹼乳白色位に溶かした微溫湯二〇瓦でもよい。紙コヨリの先端に油を浸して肛門内に挿入しても效がある。

(ろ) 扁桃腺肥大。幼兒によくある發熱の原因であるが慢性に肥大していると少しの寒冷や塵の多い空氣を呼吸したりするとぢきに發熱す。かような兒は早く場切する方がよいといふ人と少し大きくなるまで様子をみると大抵は學童期をすぎると縮小するから手術の要はないといふ人とある。これはその程度と今迄肥大しているため發熱の原因になつたり、兄弟が肥大の素質があつて手術のため效果があつたといふやうな種々の條件を判斷して定めた方がよい。

は 肺門、淋巴、臍肥大。結核の初期感染して更に肺門部の淋巴腺まで移行し、その部の淋巴腺が腫脹すると未だ何んらの特別の症狀例えは發熱、食慾不進、盜汗、不元氣、やせる、貧血など少しも自覺も他覺もない時期がある。更にそれが榮養の不足となつたり、疲れたり、感冒にかゝつたりした機會に逐いに現われてくるのは不明の發熱である。特別の認むべき原因なくして時々微熱を出すやうな幼兒は先ず結核の初期ではないかと考え、ツベリクリン反應を検査するがよい。殊

に家族や友人などに結核の疑いのあるものは一層必要である。しかも一度の検査ではツ反應が出現せぬ時期があるから再度の検査も必要である。その結果によつて續いてレントゲン検査、赤血球沈降速度検査も必要となつてくる。我國のやうな結核國しかも榮養其他環境の悪い昨今ではかような疑いのない兒でも一年に一度か二度の定期的ツ反應検査は必要である。そして陰性なればBCG注射によつて人工的免疫をしておくのが現今の豫防の常識である。殊に幼稚園保育所は集團的に容易に施行できる好適所であるから、一つの行事として是非實施すべきである。

數年前、小學校で學童の微熱が問題になつたがこの期の三七度二、三分の微熱は病的でないものが多いといふことになつてゐる。現今はツ反應という結核感染の確かな診斷方法があるため結核感染の有無は確診つくやうになつた。

(に) 腺病(スクロローゼ)。これは滲出性素質或は淋巴體質の小兒が結核に感染した場合に現われ、乳兒期に、殆んど見られず大抵二—九年位の小兒に現われ、症狀としては眼に結膜炎やフリクテン(眼星)が反復出現し、羞明を訴え、眼瞼がタツン、慢性鼻炎のため鼻孔口唇にビランや濕疹を生じ口唇が腫れて一見、豚の唇のやうな感じを興える。スクロローゼというのはスクロファ(豚)の意味から出ている。顔面耳鼓頭部に濕疹癩疹がで易く、關節にも結核症狀現れ、手や足の指趾が紡錘狀に腫れることがしばしば見られる。かような小兒は常にかぜなど引き易く發熱し易い。勿論、ツ反應

陽性である。しかし、俗間、腺病質といわれている體質とは異なるもので、所謂腺病質というの是一般に體格薄弱で胸廓扁平、るい瘦、貧血、頸腺腫脹等の存するたゞ慢然と結核にかかり易い弱々しい體質というらしく學術的名稱ではない。従つて俗間いふ腺病質には種々の原因による虚弱兒が廣く含まれてゐるワケである。それ故、その原因をよくつきとめて夫々の適當の對策を立てることが必要である。

(ほ) 慢性鼻腔カタル。時々微熱を出して家人を心配させることがある。所謂鼻の悪い子に注意すべきである。

(へ) 精神薄弱兒。白痴。腦に疾患のあるためしばしば數時間乃至數日間の熱發を繰返し、原因不明のことがある。精神異常兒と熱發ということを記憶すべきである。

#### 四 頭痛のくせ

小兒殊に幼若兒は大人のような頭痛を訴えるのは稀れであるが年長兒には軽い倦怠と頭痛を訴えるものが時々ある。かようなときは

(い) 近視、遠視、亂視。の如き眼屈折異常を疑つて必ず専門醫の診をうけるがよい。かゝる小兒は相當多いものである。

(ろ) 神経性素質。ヒステリー性頭痛。も女兒には注意すべきくせである。

#### 五 腹痛のくせ

時々、腹痛を訴える小兒は相當に多いものである。しかし、小兒が「ボンボ」が痛いといつても必ず腹痛とは限らないから注意を要する。反對に疼痛があつても虚勢を張つて痛くないという場合もある。

(い) 蛔虫症。腹痛を訴える場合、その原因が蛔虫にあることが極めて多い。殊に都會の小兒でも近頃は蛔虫感染の機会が多かつたため一層然りである。小兒が食事中急に食事を中止したり、或は食事に無關係に腹痛を訴えたりするときは先ず蛔虫症を疑つてよらしい。甚しいときは發作性のけいれんすら起すことは稀らしくない。他に異食症、偏食、蕁麻疹など起し易いことなどあれば一層蛔虫のためと思つてよい。驅虫薬も近頃は賣藥などなかなか効果の少ないものが多いから醫師より投藥してもらうか、賣藥など少し多量服用せしめるとよらしい。蛔虫は一匹のこともあり、數十匹のこともあるから服藥により一―二匹出たからといつて安心してはならない。

(ろ) 慢性腎炎、膀胱カタル。男兒には稀れであるが女兒には本症はしばしばみるので殊に淋疾性のものがあつて急性のものも治り慢性に移行し平素は何んらの訴えもないのに時々發熱と腹痛を發し氣付かずにおることがある。検尿してみればわかるのであるが女兒であるため放任されてゐる。一體に小兒は腎孟炎のとき側腹部の疼痛として訴えず腹痛として訴えるから注意すべきである。

(は) 再發性臍痛。三―四年以後の神経質小兒に見られる發作性にくる激しい腹痛で、多くは臍部に限局してくるが時

には上腹部や右側下腹部にも起り、盲腸炎や腹膜炎を疑つたりすることがあるが發熱も腫瘍も觸れず、何等誘因と思われずのものもなく腹痛が突然起り、數分乃至一、二時間に及び冷汗を流し苦悶し時に嘔吐を見るが忽然と消退する。しかし、腸不通症の如く重體の感もなく食事も攝り、忘れたように平素の状態にかえり家人を驚かす。時々、このような臍痛をくりかえす幼児がある。蛔虫症の場合となかなか區別が困難である。暗示療法やアトロピン療法が奏效するところから神経性の疾患と思われる。多くは偏食兒や虚弱體質の小兒に見られる。

## 六 咳のくせ

咳にも種々の種類もありその原因もいろいろであるがこゝでは平素小兒が日常生活中、時々咳をして氣になるといふような程度のもを上げてみる。

(一) 慢性扁桃腺肥大、鼻カタル。の如く上氣道に炎症があると呼氣の溫度の變化、塵埃等の刺激によつて易くせきをする。

(二) 百日咳の經過後。しばらくは少しの刺激で當分數ヶ月も顔面潮紅のようなせきをするのが普通である。これは他の小兒に傳染させることはない。又、經過後、一、二年後に百日咳發作のような咳をすることがある。多くは神経性素質の小兒に多し。

(三) は肺門淋、腺腫脹。これは腺腫脹のため氣管の神経を壓迫刺激するため常にせきする小兒で相當多いものである。發

作けいれん性のことやゼイゼイする喘息様のものや種々である。俗間、小兒喘息といつてゐるものの中にはかゝるものが大部含まれてゐる。

## 七 便秘のくせ

(一) 常習便秘。乳兒では母乳不足、蔗糖添加の不充分、第二含水炭素(澱粉)の投與等によつて便秘することがある。年長兒では大腸下部並にS字狀部が高度に擴張肥大しているため便やガスが蓄積され頑固な便秘と高度の腹部膨滿がくる。この病氣を

(二) ヒルシ、ニスプル、ング氏病。という。多くは先天性のものである。身體の大部分が腹部という感を與える。食慾は一般に可良であるため經過は長く稀には自然に治るが多くの漸次衰弱し、或は腸重疊症で死亡する。

## 八 嘔吐のくせ

嘔吐は一種の反射運動で延髄にある嘔吐中樞の刺激によるか、舌根、咽頭、胃腸等の求心神経の興奮による或は不快のもの臭いを見たり嗅いだり、想像することによつても起る。即ち、腦性、胃腸性、神経性、中毒性、反射性或は咳嗽による嘔吐等種々の種類がある。

(一) 習慣性嘔吐。母乳兒でも人工榮養兒でも等しく易く吐乳するくせのあるものがある。空氣嚥下、過飲又は成分の不適の當の食餌によつて起るが食餌の質や量の問題でな

く、官能性のものである。

(ろ) 反芻症。これは大人にもあるが一度胃中におさまつた食餌を突然吐き出し一部は再びのみ込むが他の一部を口中で咀嚼するのが特徴である。神経性のもので一般の嘔吐のように苦肉の様子がなく却つて快感を覚えるかの顔つきである。

は、神経性嘔吐症。幼児學童に多く消化器病に何んの關係もなく突然に起る。両親に叱られたり、興奮したり、嫌いのものを食べさせられたりなど種々の原因が誘因となる。

(に) 週期性嘔吐症。二一〇年頃の幼児に多く數日乃至週餘の連続の嘔吐あり更に數週數ヶ月の間隔をもつて再び繰返す頑固の嘔吐である。嘔吐は一見重篤の感を與える一日一五—一〇回少し重い例は四、五〇回に達するものも珍しくない。嘔吐と同様に脱力倦怠、眼がくぼみ、顔色蒼白、無慾状態となる。熱は低いに拘らず脈は細く不整である。呼吸は深く、呼氣にアセトン臭がある。小兒はかゝる嘔吐の始まることを前日頃より豫知するものもある。

(ハ) 自家中毒症。週期性嘔吐症の重篤のものだという説のある位よく類似した病で素人には區別は出來ない。高熱を發したり精神モロー、昏睡状態に陥り脳症甚しく痙攣を見ることがある。コーヒー様吐、便に黒色のテール様の混することがある。呼氣にアセトン臭のあることも特徴である。

(ヘ) 乳兒脚氣。本症も吐乳を一つの症状とするが俗間、乳兒が少しく續けて吐くと直ちに乳兒脚氣と稱して母乳を中止し却つて消化不良症の原因となつた例が多い、近頃は吐乳の

原因を確め、よし乳兒脚氣、ビタミンB 欠亡症でも母子の脚氣治療を行いながら哺乳をつとけてゆく方針であることは一般周知のことと思ふ。

## 九 下痢のくせ

(イ) 慢性消化不良症。慢性に経過する下痢を伴う栄養失調症で多くは急性の種々の胃腸障害から引きつゞき起る。戦後、栄養失調症なる病が急に高唱されたが小兒科領域では以前より稀れの病氣ではない。しかし近時戦争ははげしくなるにつけ多くなつたのは事實である。殊に引揚兒は多小に拘らず本症にかゝつてゐるものが多い。本症は乳兒の場合は幾分おもむきを別にするが年長兒では一日數回の消化不良便があり、體重増加は止り、幾分全身に浮腫あり、脱肛がある。食慾は却つて増進し常に空腹を訴える。神経質となり不きげんである。下痢が止つたと思ふと大した原因なくして再び下痢するといふ状態をつとけるのが普通である。そのため家人は心配のため充分の栄養を與えることができず却つて益々栄養不足の状態となり體力は衰え胃腸機能は回復せず、るい瘦する結果となる。従つて理想は消化し易いという理由で重湯とかおじやというようなもののみを主食とせず、相當の蛋白質、ビタミン殊にBの多いものを合理的に與え、少量で栄養價のあるものを一日四回とか五回に與える方がよろしい。過度の運動をさせ、保温に注意することが大切である。一般に胃腸の弱い體質のものにはビタミンB 複合體殊にB<sub>12</sub>が必要だと

われている。エビオス、ワカフランの如き酵母製剤が適當である。

## 十 貧血

顔色が悪いといわれる小兒に眞性の貧血と假性の貧血がある。後者は前者と異り、血色量並に赤球血數には異状のない外見の貧血である。

(イ) 學校貧血。細民貧血。はこれに屬する神經質兒が急に學校や幼稚園等に入り、規則正しい生活に刺戟されたため、迷走神經と交感神經との障碍によつて皮膚細小血管が異常な攣縮を起すためであるといわれている。日光の不充分、不衛生、食餌の不合理も貧血の原因となるであろう。

(ロ) 食餌性貧血。乳兒、離乳期兒に見らるゝものであるが單に食餌の量的不足ではなく、不合理の營養成分のため起るものもあるべく、偏食兒は、神經質、筋力薄弱と共に貧血が主要な徴候である。

は、偏食兒。偏食の原因は不明であるが誘因としては離乳の遅延、重症の病後、蛔虫症、神經質、親の偏食、我まゝ等種々上げることができる。

(ニ) 十二指腸虫症。蛔虫症。近頃、疎開、生活の不衛生等にて都會の小兒にも腸寄生虫に注意が肝要であることは已に述べた。

## 十一 夜尿症

膀胱括約筋が完成された二年以後に於てなお夜間睡眠中、無意識に或は半意識的に放尿するもので、その原因は多種多様であるため治療法も民間、専門極めて多數である。或るものには奏效し或るものには無效ということになる。従つて夫々の原因を成るべく探求しそれに應じた處置をあれこれと根氣よく試みるより他今の處置なしである。

その原因としては「一」體質精神性障害と認むべきもの例えば(イ)低腦(ロ)てん痼(ハ)ヒステリー(ニ)神經系の遺傳的障害(ホ)新陳謝榮養障碍(ヘ)異常深度の睡眠(ト)夢(チ)器質的障碍としては(チ)膀胱の充滿(リ)膀胱カタル、自慰行爲の局所刺戟(ヌ)膀胱粘膜知覺鈍麻(ル)膀胱括約筋衰弱(オ)膀胱筋の反射的攣縮(ワ)寒熱刺戟(カ)アデノイド等である。

## 十二 發疹、皮膚病のくせ

(イ) 蕁麻疹。のでき易い小兒がある。一種のアレルギー性疾患(過敏症)で個人によつて異なるが特殊な蛋白質(卵、鱈、かに、海老)、腸寄生虫、過食等によつて發現する。なお、下痢、喘息様發作を起すこともある。粘膜にも現われるからである。本症の本態は未だ不明のため對症療法をするに過ぎない。大人になるに従いだん／＼過敏性が薄らいでくるのが普通である。

(ロ) ストロフルス。四肢伸縮、軀幹、頸部等に多數散發性に丘疹や小水疱を生じ痒み甚しく搔けば紅色の蕁麻疹を生じ、



痒みため睡眠を障げられ食慾不進を招來する位である。これも近頃、アレルギー説が主張せられ、食餌、虫刺、著衣、塵埃、花粉等が過敏原となるとせられてゐる。

(は) 濕疹。

皮膚病の三分の一は濕疹だといわれる位で乳幼児のその大半を占めてゐる。これも近頃、アレルギー説が有力で従つて種々の刺戟となるような原因をさげねばならない。洗面用の石鹼、硼酸水、着衣及その塗料、或はその小兒の汁、涎水、尿等も刺戟原となり得る。食餌性アレルギーも考えらる。母親の食餌がその原因となることは俗間唱えられてゐる。ビタミン不足も重要な原因とされてゐる。近時、濕疹や後述の膿痂疹の小兒に流行してゐるのは疎開中の未經驗の刺戟、不衛生、氣候の變化、蛔虫症、營養の不適合、殊にビタミンの不正配合等種々不明の原因によるのであらう。

處置としては原因となるべきものを極力探求してそれをさげ、入浴洗面を禁止し、緩和な塗布劑例えば亞鉛華オレノフ油を貼布し、或は一―二%のピチロール又はグリテール亞鉛華硼酸軟膏を厚く布にのして貼布する。赤外線は有效であるが紫外線は却つて乳兒などには刺戟強く有害である。

(に) 膿痂疹。

葡萄狀球菌性のもの(俗にとびひ)連鎖狀球菌性であるがいずれも近時流行し、早期に充分の手當が加えられず、搔いたり、周圍に傳染したりして更に濕疹となつたりして、戦時中戦後甚しく流行してゐた。ズルフォンアミド劑の外用、内用によつて著效あることがある。

○子どもの歸つた後で

『新しい組でたいへんね。疲れるでしょう』

『え。へとよ』

『お子さん、もう保育になれて』

『どうかと思つたら、早くなれるものねえ。たゞ、わたしの方がなれないの』

『あら、あなたが、そんなこと』

『ほんとよ。まるつきりしんき』

『熟練家のくせに』

『どうして〜。新しい子は廻通りいかないのね。まるで、新しい先生といつた氣もちになるの』

『そういえば、そうね』

『わたし此頃思うのよ。新しい子のおかげでわたしの保育も、新しくなれると。ほんとに、そんな氣がするの』

『わたしも、同じこと思つたことがありますわ。新しい組をもつたびに、新しく先生になつた氣がするのね。』

『それでなくつちやあ、わたしたち年々に古くなるばかりですもの』

『新入園兒に救われる譯ね。』

『そんな譯ね。……そう思うと、疲れもなごるわ』

# 會から

○本號の出る頃は、幼稚園に新入園児を迎えて、皆さんの最もおいがしい最中でしよう。ことは入園希望者が多いということ。戦災地などでは、幼稚園の少なくなつたことも、その理由の一つでしようが、全體として、幼稚園の必要を家庭が感じ來つたことは、その深い理由でしよう。われ々の責任はいよゝゝ重くなりました。

○その責任を果すために、保育法の研究に力を盡さなければならぬことは申すまでもありません。しかも、お互の勉強は、保育方法の直接の事項と共に、深い廣い研究に心を用いなければなりません。本誌は、この、保育の實際と教養的研究との一方に偏しないようにと氣をつけています。そのため、もつと實用的材料を多くという御希望に充分そわないところもありましようが、だん／＼その點も氣をつけたいと思ひます、しかし、必ずしもすぐ役に立つといつたことでない研究阿が稀薄にならぬようにとも思つています。

○講座欄もその趣旨からの一つです。前號で牛島教授の「個性心理」を終り、本誌には廣

瀬博士を煩わして「病氣のくせ」を執筆していただきました。小兒病一般の醫學知識といつていゝ有益のものです。講座欄は少しかたいものになりますが、研究のため精讀し、また長い間の知識としていただきます。

## 『幼兒の教育』編集

編集主幹

倉橋惣三

編集委員

牛島義友

及川ふみ

齊藤文雄

多田鐵雄

山下俊郎

(五十音順)

編集部員

丸山長治

日本幼稚園協會

### 幼兒の教育

第四十六卷 第三號  
定價 金參圓五拾錢也

昭和二十二年四月二十五日印刷納本  
昭和二十二年四月三十日發行

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

編集兼 發行者 倉橋惣三

東京都千代田區神田神保町三ノ二九  
印刷者 發田榮藏

東京都千代田區神田神保町三ノ二九  
印刷所 明和印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田區神田神保町三ノ二九

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33)四三〇・四三二・四三五  
振替東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他は凡べて發賣所フレイベル館宛に願います

及川ふみ先生畫

# 又リエ

B 6 判金二册  
卷一、年少用  
卷二、年長用

定價各金七圓

送料各一圓二十錢

本帳は東京女子高等師範學校附屬幼稚園の立案にて全園幼稚園、保育所に採用せられ頗る好評、表紙挿彩色頗る美麗、本文十六枚綴

# じゆう画帳

A 5 判全一册  
定價金三圓五十錢  
郵税金一圓二十錢

# 出席カード

十二枚一組  
定價金拾圓  
送料金一圓二十錢

各幼稚園の爲に特製した二つ折の美しい四色刷のカード一ヶ月一枚宛、十二枚一箇年分、裏面には幼稚園と家庭との通信欄を設く

# 手技用折紙

全五色  
各色五十枚  
赤・青・黄・緑・紫

定價五十枚一組金七圓 送料金一圓二十錢  
立體的な手技の初めで、児童自身工夫想像の餘地は少く、最初は全く模倣作業で稍困難ですが、慣るよにつれて喜んで之をいたします。可成正確に折らせる處に諸種の教育的價値があります。

# 出席簿

五十枚一組  
B 五 判

一組定價金五拾圓 送料一圓二十錢  
巾六寸縦八寸五分にて兩面刷です一枚に園児四十名分を記入することが出来ます

# 月謝袋

B 七 判  
五十枚一組

一組定價金廿五圓 送料一圓二十錢

先生三惣橋倉顧問

# キンダブック

定價一冊金拾圓 送料金五十錢

## 繪雜誌界の霸王

新しい保育用として全國の御家庭に  
是非一冊を備へられんことを

### 各地代理店

發行所

株式會社  
フレールベル館

振替口座東京一九六〇番

東京都千代田區神田神保町三丁目廿五番地

北海道代理店

北海  
道  
舍

北海道帶廣市東一條南九丁目一〇

東北代理店

淺見  
商  
事

高崎市田町三丁目十六番地

東北代理店

金井  
榮  
一

群馬縣伊勢崎市新町

東部代理店

岡田  
商  
店

東京都葛飾區金町

北陸代理店

柴田  
喜  
一

福井市佐久良仲町

四國代理店

幼兒の友  
社

松山市末廣町二丁目二十二番地

中國代理店

明生  
社

岡山市小橋町百七十番地

關西代理店

安田  
商  
社

岐阜市湊町十八番地

關東代理店

新友  
社

東京都杉並區西荻窪三ノ九五